

職員からの事業所自己評価の集計結果（公表）

公表：令和3年3月

事業所名：仙台市サンホーム

職員回答数 14名（1名育児休暇中） 回答数14枚 回収率 100%

必修項目	○	チェック項目	評価			工夫している点 (現状および課題や改善すべき点含む)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容または改善目標
			はい	いいえ	未記入		
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6 (42.9%)	8 (57.1%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・10組の親子が少し狭い。空間を仕切り直しながら工夫している。 ・パーティションを用いた環境設定をしている。 ・現在1クラス7～8名だが、それでも狭さを感じる。定員10名だと厳しい。 ・遊ぶだけではなく食事や着脱などするため、部屋が狭いと感ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大園生数の増加に伴い、前期からクラス内の人口密度も高まる傾向がある。保育室数も限られ空間を分けての療育も困難であることから、園庭の活用や散歩の機会の増加などプログラム内容を工夫し、子ども同士の衝突等、けがの予防に努めている。 ・限られた空間内で子どもの特性を把握し、危険予知したかわりが重要であるため、施設内設備や環境面において安全な改善に努めている。
	②	職員の配置数は適切である	8 (57.1%)	6 (42.9%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・10組に対して3人だとギリギリだが、フリー職員が入ることでなんとかやれている状況である。 ・10人に対して3人の職員では1人あたりの負担が多いと感じる。 ・必要に応じてフリーのスタッフにも入ってもらっている。 ・画で定められている配置数で行っているが個別フォローが必要な子がいると1クラス3人では足りないと感じる。 ・必要に応じて、フリーのスタッフにサポートに入ってもらっている。 ・子どものフォローだけではなく、保護者のフォローをするのを考えると足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス対策のためにスタッフ数も調整し、2部屋にわけるとの対応を実施した。少人数により個別視点での特性の把握面でもメリットがあった。 ・途中入園児への対応や母子分離時、あるいは散歩等危険回避が必要な活動の場合はフリー職員（主任・副主任・看護師など）を随時配置している。 ・保護者自身の体調不良などで支援を要することも多く、タイムリーな対応をする職員がいらない場合は看護師や園長が対応をしている。 ・すぐには欠員補充も難しいが継続的に保育士を募集している。 ・療育に必要な教材作成などは積極的にボランティアの協力を得ている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11 (78.6%)	3 (21.4%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてパーティションを使い構造化するようにしている。個別的な対応ではまだ課題が残る。 ・生活空間を分かりやすく構造化するうえで部屋が狭い。 ・面談室がなく、部屋の使い方に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた部屋数とスペースの中で安全面を考慮しながら、特に食事については子どもの特性や感染症対策によりテーブル設定などを試みている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除はマニュアル化し、物の整理を心がけている。 ・療育後は毎回いぬいに清掃・消毒している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭いながらも子どもの特性に応じたパーティションの活用や個別スペースの確保など安心して活動できる構造化を工夫している。 ・療育前後で清掃を行い、特に感染症の予防のためにも温度管理や加湿、定期的な換気に配慮している。特に新型コロナウイルス対策においては使用遊具や玩具の消毒をこまめに実施した。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加している	12 (85.7%)	0 (0%)	2 (14.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度話し合うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1～3回の職員会議、月1回の療育会議を実施し、療育内容や業務についての問題を提起し、改善案を出し合っている。新型コロナウイルス対策においても職員全員で最善の方法を検討し、周知・実践している。
業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育での改善点の抽出、設備関係の点検などについても、会議内で共有して、改善の方向性を確認していくようにしている。
	⑦	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表結果をもとに職員と協議して改善案を作成し、3月に公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	10 (71.4%)	1 (7.1%)	3 (21.4%)		<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の監査や法人の総会などで事業の評価（業務改善も含む）についても報告書等を提示している。
	⑨	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立てきちんと行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育スキルの向上を求められるため、常勤・非常勤問わずに内部研修・外部研修の機会を設定している。 ・外部研修参加者は必ず会議等で伝達講習するようにし、職員間で共有できるようにしている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からリモート研修を受ける機会が多かった。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々の経験年数も異なり、多職種がチームを組んで実施しているため、日々の療育の振り返りを実施している。また、療育会議は、他クラスの職員からの客観的な意見も確認できる機会になっている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7 (50.0%)	3 (21.4%)	4 (28.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントツール（発達検査など）は使用していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントツールは使用していないが、特性を把握するシート等を活用し、アセスメントに活かしている。今後は情報が整理しやすく、記録を簡素化するシートを検討していきたい。
	⑫	児童発達支援計画には児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもに必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な表現は避け、すぐに実践できる内容を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの現状把握や進路先での課題を踏まえて具体的な支援内容を組み立てている。支援内容のフォームは、毎年見直してよりわかりやすく効率的な記載様式を工夫するように努めている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に「家族からみた子どものようす」を記載してもらい、家庭での様子や保護者の思い・意向を盛り込んで具体的な計画を作成して支援を実施している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7 (50.0%)	0 (0%)	7 (50.0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容については、計画に基づきクラス担当を中心に主任なども加わり客観的な視点を盛り込み、チームで取り組んでいる。

適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	13 (92.9%)	1 (7.1%)	0 (0%)	・マンネリ化している部分もある。研修や参考本などでアイデアを盛り込みたい。	・発達の課題と遊びのねらいを意識した上で、活動プログラムを作成している。遊びの広がりや大切にする、同じ遊びの定着をねらう、成長を確認してスタッフアップさせる等、成長過程に応じたプログラム内容を保護者と共有して進めている。内容の工夫については研修などの学習機会を増やしていきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	13 (92.9%)	1 (7.1%)	0 (0%)	・職員配置と部屋数の関係により、個別活動は前期までしかできない。	・数年前から個人の特性に応じた個別療育も実施している。今後は特性と課題に配慮した個別活動を集団活動の中に汎用化していけるよう試みていきたい。
	17	支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	14 (100%)	0	0	・細かく役割や流れを確認している。	・朝のミーティングではクラスごとの全体の流れと人員体制、使用遊具などの確認と調整を実施している。また、子どもが登園する前の20～30分間、クラス内で打ち合わせを実施し、当日の段取りや役割を再確認している。
	18	支援開始後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	13 (92.9%)	0 (0%)	1 (7.1%)	・面談や会議などでできないこともあるがなるべくするようにしている。 ・なるべく共有するようにしている。 ・個別記録などを書きながら振り返りや反省などを行っている。	・子どもが帰園後にクラス担任全員で療育内の状態についての振り返りを実施している。活動全体の課題や子どもの行動面の変化、気持ちの汲み取りを共有し、次回の活動計画に生かしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14 (100%)	0	0		・振り返りと記録を通して、子どもの成長の把握（モニタリング）を行い、支援の効果や修正等、支援内容の検討を行っている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13 (92.9%)	1 (7.1%)	0 (0%)	・個人ではなかなか難しいがクラス会議で振り返ることがある。 ・面談を行っている。	・モニタリングは日々の振り返りのみならず、療育会議や内部研修（ケースカンファレンス）を通して実施している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・	・子どもの状態像と支援の方向性に精通する職員として、クラス担任、主任、地域相談員などが参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・連携はしているものの家族への支援をどこが主で行うのが未だにぼんやりしている。	・アーチルや家庭健康課等と連携し、個別ケースのフォローアップを実施したり、地域相談員が保育所の相談支援やひすくの活動に参画したりしている。今後はどこがどの程度の役割を担うのかを明確にした会議や連携を実施していきたい。
	23	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12 (85.7%)	2 (14.3%)	0 (0%)	・関係機関が参加した会議を行った。 ・病院などは個人情報扱いの観点からも連携の難しさを感じる。もっと連携を図りたい。	・定期的に受診している児童については、その都度受診結果を共有している。重症心身障害については、アーチルや医療機関の受け入れの場合は、具体的な医療ケアについてかかりつけ医と連携し、研修体制も整備していきたい。
	24	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている	12 (85.7%)	2 (14.3%)	0 (0%)	・病院などは個人情報の扱いの観点からも連携の難しさを感じる。もっと連携を図りたい。	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・進路先の保育所（園）や幼稚園に支援内容や情報の引継ぎを実施している。進路先での適応状態の確認については3ヶ月目に電話フォローを行い、必要時保育所等訪問を実施している。今後、支援の課題を抽出して進路先の支援者の研修等を企画していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7 (50.0%)	6 (42.8%)	1 (7.1%)	・直接卒業に就学するようなお子さんについては行うようにしているが対象となる子がほとんどいない。 ・サンホームから直接、学校へ入学する児がいないため。仮にいた場合は必要な連携を図っていく。	・小学校特別支援教育の教員と連携し、卒園児や地域の保護者を対象に就学における講演会を実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施しなかった。今後は幼稚園や保育所とリモート研修も検討していきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・仙台市内の児童発達支援センターや県内の療育機関と日頃から研修や情報交換の機会を設けている。困難な事例についてはアーチルなど専門機関と連携を図っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	2 (14.2%)	3 (21.4%)	9 (64.3%)	・コロナの影響でできていない。	・令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施できなかったが、今後は近隣の保育所との交流保育や行事を通して活動の場の共有を図りたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5 (35.7%)	0 (0%)	9 (64.3%)		・今後も地域相談員を通して地域の子育て会議などに参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・年に2回プログラム説明時、年2～3回のクラス懇談、父親等家族参観・懇談のほか、随時個別面談を設けている。毎日の療育においても振り返りを実施し、成長の確認、課題の共有、認識のずれの解消などを心がけている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	8 (57.1%)	0 (0%)	6 (42.9%)		・今年度もペアレントプログラム研修を受講した職員による「自己肯定感を育む」という内容で保護者勉強会（ワーク）を実施した。今後はシリーズで実施していけるよう計画していきたい。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・入園前の見学時の説明やオリエンテーション時などに対象者の理解に合わせた説明を心がけていきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・面談をていねいに行っている。	・今後も保護者の理解の仕方を考慮し、わかりやすく丁寧な説明を心がけていきたい。保護者の受け止め方が不十分、あるいは認識のずれが生じた場合は繰り返し、誠意をもって説明をしていきたい。

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・日々の療育中や面談でお話を聞いている。	・子育ての悩みについては、クラス担任が中心となり相談を受けているが、場合によっては主任や副主任、園長、地域相談員が担当し助言している。日頃より保護者の不安な表情や困っている状況を早めに察知し、傾聴できるよう心がけている。
	35	父母の会を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7 (50.0%)	0 (0%)	7 (50.0%)		・令和2年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から保護者会は中止とした。療育内での保護者交流タイムや保護者勉強会を通して、保護者同士の連携づくりを支援している。障害の捉え方や子どもの成長の共有など、保護者同士が互いに気づき合えるよう心がけている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・苦情申し立て・解決の体制については、オリエンテーションで丁寧に説明しているが、日々の療育では保護者の認識とのずれを最小限にできるようにクラス担任のほか主任・副主任、園長も加わり対応している。
	37	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7 (50.0%)	0 (0%)	7 (50.0%)		・月ごとの会報や保健だより、法人の広報誌のほか、子育てや特性理解に役立つ参考本なども積極的に紹介している。
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・入園時に個別情報の取り扱いの承諾書をお渡ししているが、日々の療育においてもその都度写真撮影やSNS使用についての注意など繰り返し説明している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・保護者との情報共有や子どもの成長の確認などについては、療育内活動時、クラス懇談、個別面談等に丁寧な説明を心がけている。保護者の受け止め方を確認して小さな誤解やずれを早期に解消できるように努めていきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	5 (35.7%)	8 (57.1%)	1 (7.1%)	・コロナの影響できていない。 ・地域研修の実施。 ・今年度はコロナ対策として行わなかった。例年は行っている。 ・地域の支援者向けの研修などを実施している。	・令和2年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から行事にも来客者を招かなかった。感染収束後においては、成長段階に配慮しつつ、近隣保育所児童との交流も検討していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているが、また、発生を想定した訓練を実施している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		・子どもや保護者参加の避難訓練やノロウイルス感染を想定した対応訓練、職員のみ救急蘇生・AED使用訓練などを毎年実施している。今年度はアレルギーの研修会も実施し、職員全員に対応を周知した。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・定期的に行っている。	・地震や大雨による休園時には個々に電話連絡を実施していたがタイムラグが発生するのでメールによる連絡体制の確立に取り組んだ。今後はさらに充実させていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・入園時などに確認している。	・入園時に健康管理シートにより健康状態やかかりつけ受診機関、予防接種状況、服薬状況等の確認を実施し、園内、詳細はクラス内にて共有している。また、てんかん発作時の対応やけがの適切な対処については、内部研修を毎年定例化して実施している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	8 (57.1%)	0 (0%)	6 (42.9%)		・今年度はアレルギーの専門医からの研修を受講し、職員全体の意識や知識の向上に努めた。また、アレルギーマニュアルの作成、個別シートの作成に取り組み、運用している。
	45	ヒアリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7 (50.0%)	0 (0%)	7 (50.0%)		・園内外に潜む危険場所のチェックなどリスクマネジメントの手法を通して内部研修している。今後さらに深めた研修内容にしていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13 (92.9%)	0 (0%)	1 (7.1%)		・虐待予防の研修の強化のほか、誤解を受けにくいような行動についても職員全体で共有していきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4 (28.6%)	1 (7.1%)	9 (64.3%)	・子どもの安全面を優先させるために必要な補助の仕方を共有し、必要性がある場合に限って記載する。	・虐待予防や身体拘束についてのマニュアル説明については新年度の集会にて周知している。職員全体が再認識できるよう努めたい。